

## ライフケアガーデン熱川 本館

症 例 概 要 利用者氏名：Y・H様（70代・男性・要介護3）

病名：心房細動、脂質異常症、狭心症、認知症、うつ病発作

経過：入居当初は、非常に元気がなくうつ状態であったが、ライフケアガーデン熱川での生活を通じて生活が活性化された症例です。

### 内 容

平成30年11月上旬より行方不明となり、数日後に品川で独りでいるところを保護され、近隣病院に入院。その後状態は安定し、11月中旬にI病院に転院となりました。

転院した頃は空腹感が強く、病院をこそこそ抜け出そうとしたり、落ち着かず院内を歩き離棟確立も高く、十分な対応が必要でしたが、居室に居れば食事が届くということが理解でき、少しは落ち着くようになりました。しかし、ただただ横になってウトウトしていることが多くもなりました。

平成31年3月、後見人である司法書士の先生から、病院を退院しても独居での生活が困難そうなので、ライフケアガーデン熱川へ入居するのはどうでしょうか?と相談があり入居となりました。ライフケアガーデン熱川へ入居されてからも、ベットでウトウトとしていることが多く、レクリエーションもあまり参加せず、歩行訓練も介護職員が声をかけてしぶしぶ行う状況でした。

Y・Hさんは、生涯独身で、身内と呼べる人は、九州の施設に入居している母だけであり、寂しかったのかもしれませんが。

ライフケアガーデン熱川で、『三度の食事』、『リハビリテーション』、『温泉入浴』と規則正しい生活をおくっているうちに、だんだんと生活に活気が出てきました。

部屋の中には器や置物等の一点物が自己流にコーディネートされて置かれており、ここでの生活をとても楽しんでいるようです。最近では、10代の頃から始めた『マンドリン』の演奏も再開し、クリスマス会で披露することを励みに頑張っています。

ライフケアガーデン熱川へ入居して、いろんな経験を持つ他の利用者さんと話したり、職員と話したりするうちに、生活が活性化されている様はとてもキラキラしています。